



気候

- 温室効果ガスの排出の削減
- 再生可能エネルギーの採用増

地球規模で起きている気候変動を抑制すべく、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べ2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力を追求するパリ協定の目的を支持し、ファスニング事業における温室効果ガスの削減に取り組めます。

GOALS

- 自社およびサプライチェーンにおけるCO₂をはじめとした温室効果ガスの排出量を削減
- Scope1, 2: 2030年までに50%削減 (2018年比)
- Scope3: 2030年までに30%削減 (2018年比)
- 2050年に向け、温室効果ガス排出ゼロ (カーボンニュートラル) を目指す

- 製造方法と設備の改良、オペレーションと各工程の効率化を進め、エネルギー効率を向上
- 2019年以降、石炭使用設備の廃止と2030年までに全ての石炭使用設備を廃止
- ファスニング事業拠点に再生可能エネルギー設備設置を可能に切り替える
- Scope2の排出削減のため、9割から再生可能エネルギーを100%に切り替え
- Scope3の排出削減のため、2030年までにファスニング製品の梱包材を100%持続可能素材(リサイクル材、自然由来材料など)に変更



資源

- 持続可能な資源の採用増

ファスニング事業で製造される商品や、使用される梱包材における環境負荷を低減し、持続可能な素材へと移行することで、商品のライフサイクルを通じて発生する廃棄物を削減、石油由来材料使用の削減、および循環型社会の実現への貢献を目指します。

GOALS

- ファスニング製品の繊維材料を、2030年までに100%持続可能素材(リサイクル材、自然由来材料など)に変更
- ファスニング事業で使用される全てのビニール/プラスチック製梱包材を、2030年までに持続可能素材や、回収・再利用など、持続可能な形態に変更
- 全ての製造拠点において、埋め立て、あるいは焼却される廃棄物の排出量を削減
- 2030年までに、廃棄物の再資源化率を90%まで向上



水

- 水の利用量の削減
- 排水管理の強化

深刻な水資源の枯渇・劣化問題に対し、ファスニング事業において取水量の削減と排水の環境負荷低減などに取り組めます。

GOALS

- 水資源問題が顕念される地域の製造拠点において、水使用の効率化、再利用などの取り組みを通じて、取水量を削減
- 政府の規制および、ZDHC (有害化学物質排出ゼロ) のような業界基準をもとに制定した自社基準(YKK RSL)に準拠し、製造製造における入口から出口までの化学物質使用を管理し、化学物質の使用削減を進める



化学物質

- 化学物質の管理と削減

将来世代にわたる豊かな生活を確するため、ファスニング事業に関する化学物質による環境への影響・負荷を最小限にとどめます。

GOALS

- ZDHC (有害化学物質排出ゼロ) のAMSL (製造規制物質リスト) などの業界基準をもとに制定した自社基準(YKK RSL)に準拠し、製造製造における入口から出口までの化学物質使用を管理し、化学物質の使用削減を進める
- Standard 100 by OEKO-TEX®のような業界基準を遵守し、製品における規制物質の使用を禁止
- 有害化学物質を削減し排除するよう新しい製造方法を開発



人権

- 人権の尊重と
- 公正で安全な労働環境の維持

全ての人間の尊厳と権利を尊重するという世界共通の理念を重視し、多様で持続可能な社会に貢献します。

GOALS

- 多様性を認め、包括的な人権の尊重と労働環境の改善の徹底により、一人ひとりが働きを誇り、安心して働ける安心安全な職場環境をサプライチェーン全体で形成し、健康で幸せに暮らす生活を支援
- YKKグループ「善の道徳」とISO26000にもとづいたYKK (YKK Global Criteria of Compliance) 監査を全YKKグループの製造拠点を中心に実施し、第三者機関による定期的な監査も実施することで、透明性を維持しつつ持続可能な活動への更なる改善を行う



sustainability vision 2050

YKK's action plan for a sustainable future

※ Scope1は自社の直接排出量、Scope2は電力など自社で消費したエネルギーの間接排出量、Scope3はサプライチェーンなど、その他の間接排出量

2022年4月25日 ファスニング商品の内装包材の一部を持続可能素材に切り替え

～「YKKサステナビリティビジョン2050」のもと、持続可能な資源の採用増を目指す～

YKK株式会社

2022年04月25日

YKK株式会社 ジャパンカンパニー（所在地：東京都台東区、プレジデント：山本徹、以下、YKKジャパンカンパニー）は、YKK株式会社（以下、YKK）の黒部事業所から出荷するファスニング商品の内装包材の一部を、バイオマス素材30%含有のポリエチレン製に切り替えます。

YKKは2050年までに「気候中立」を達成するための持続可能性目標である「YKKサステナビリティビジョン2050」を掲げ、「気候」「資源」「水」「化学物質」「人権」の5つのテーマで目標を設定し、それぞれに関連する10項目のSDGsの達成にむけて取り組んでおります。そのうち「資源」のテーマの一つとして、「ファスニング事業で使用される全てのビニール/プラスチック製梱包素材を、2030年までに持続可能素材や、回収・再利用など、持続可能な形態に変更」することを目標に掲げております。

YKKジャパンカンパニーでは、2021年秋から段階的にファスナー商品の内装包材のバイオマス素材への切替えを進めてきておりましたが、今後も順次進め、バイオマス素材使用の内装包材の比率を高めていきます。この度のYKKジャパンカンパニーにおける内装包材の切替えを皮切りに、YKKではファスニング事業のグローバル各拠点で梱包素材の持続可能素材への切替えを進め、全社一丸となって、2030年までの目標達成を目指します。

気候

- 温室効果ガスの排出の削減
- 再生可能エネルギーの採用

地球規模で起きている気候変動を抑制すべく、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力を追求するパリ協定の目的を支持し、ファスニング事業における温室効果ガスの削減に取り組めます。

GOALS

- 自社およびサプライチェーンにおけるCO₂をばいどした温室効果ガスの排出量を削減
- Scope1, 2: 2030年までに50%削減 (2018年比)
- Scope3: 2030年までに30%削減 (2018年比)
- 2050年に向け、温室効果ガス排出ゼロ（カーボンニュートラル）を目標とする

※ Scope1は自社の燃焼炉、タービンエンジンなど直接の燃焼を意味し、エネルギーを消費する機器、

※ Scope2は自社の電力消費を意味し、2019年以降、石炭火力発電の削減と再生可能エネルギーの導入による削減を目標とし、2030年までにファスニング製品の最終材料を100%再生可能資源材料（リサイクル材、自然由来材料など）に変更

※ Scope3は製品の調達から、2030年までにファスニング製品の最終材料を100%再生可能資源材料（リサイクル材、自然由来材料など）に変更

資源

- 持続可能な資源の採用

ファスニング事業で製造される商品や、使用される梱包材における環境負荷を低減し、持続可能な素材へと移行することで、商品のライフサイクルを通じて発生する廃棄物を削減、石油由来材料使用の削減、および循環型社会の実現への貢献を目指します。

GOALS

- ファスニング製品の最終材料を、2030年までに100%持続可能な素材（リサイクル材、自然由来材料など）に変更
- ファスニング事業で使用される全てのビニール/プラスチック製梱包材を、2030年までに持続可能な素材や、回収・再利用など、持続可能な方法に変更
- 2030年までに、廃棄物の再資源化率を90%以上とする

水

- 水の利用量の削減
- 排水管理の強化

深刻な水資源の枯渇・多化問題に対し、ファスニング事業において取水量の削減や排水の環境負荷低減などに取り組みます。

GOALS

- 水資源の乏しい地域・多化問題の多い地域において、水使用の効率化、再利用などの取り組みを通じて、取水量を削減
- 政府の規制および、ZDHC（有害化学物質削減ゼロ）のような業界標準をもとに設定した自社基準に照らし、全ての製造拠点において排水管理を強化

化学物質

- 化学物質の管理と削減

将来世代にわたる豊かな生活を残すため、ファスニング事業に関わる化学物質による環境への影響・負荷を最小限にとどめます。

GOALS

- ZDHC（有害化学物質削減ゼロ）のMRSL（製造時制限物質リスト）などの業界標準をもとに設定した自社基準（YKK RSL）に照し、製造拠点における入口から出口までの化学物質使用を管理し、化学物質の使用削減を促す
- Standard 100 by OEKO-TEX®のような業界標準を遵守し、製造における有害物質の使用を禁止
- 有害化学物質を削減し排除するより新しい製造方法を開発

人権

- 人権の尊重と公正で安全な労働環境の維持

全ての人間の尊厳と権利を尊重するという世界共通の理念を重視し、多様で持続可能な社会に貢献します。

GOALS

- 多様な国籍・文化的背景を持つ人々の多様な価値観の尊重の観点により、一人ひとりが個性を活かして働ける安全で健康的な労働環境をサプライチェーン全体で形成し、健康で幸せに暮らす生活を支援
- YKK製材所の認定とISO26000:06に基づいたYKKC（YKK Global Criteria of Compliance）監査をYKKグループの製造拠点を中心に実施し、第三者機関による定期的な監査も実施することで、透明性を維持しつつ持続可能な活動への更なる改善を行う

sustainability vision 2050 YKK's action plan for a sustainable future

※Scope1は自社の燃焼炉・タービンエンジンなど直接の燃焼を意味し、Scope2は電力を消費する機器を意味し、Scope3は製品の調達から、2030年までにファスニング製品の最終材料を100%再生可能資源材料（リサイクル材、自然由来材料など）に変更

YKKサステナビリティビジョン2050



バイオマス素材30%含有のポリエチレン製内装包材

参考：YKK株式会社ニュースリリース

■YKKサステナビリティビジョン2050

2050年までに「気候中立」を達成するためのYKK株式会社の持続可能性目標。「気候」「資源」「水」「化学物質」「人権」の5つのテーマと、関連する10項目のSDGsの達成にむけて取り組んでいます。

https://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/g_news/2020/20201013.html